

2024年5月20日 東海大学健康学部・澤岡詩野

## 第5回高齢社会対策大綱の策定のための検討会 事前資料を拝見して感じたポイント

- ・国際貢献・発信・ロボット技術について
  - 日本の介護予防に対する関心が高い
  - 直接的に介護にかかわるロボットだけではなく、コミュニケーションロボットについてももっと力をいれてもよいのではないかと

参考 令和5年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「諸外国の介護制度に関する調査研究」p.35~、p.65~
- ・身寄りのない高齢者への身元保証など
  - 「身寄りのない」という表現は変えた方がよいように感じる  
血縁がいても、頼りたいと思える家族や身内がない  
こんな人も増えているように感じる
  - どこまで支えるかは議論が必要だが、ひとりで暮らすことを選ぶ人も増えているなかで、主体的に生きること、自分らしく暮らす権利を保障する選択肢の一つとして身元保証が位置付けられるように考える
  - 単身化することを前提にした、早い段階からの備えについての意識改革も重要
- ・社会的処方
  - GP・イギリスの制度をそのままではなく、日本の社会的処方を考える必要がある（地域包括ケアシステムがそのベースになるはず）
  - 社会的処方が成立する為に、医師の意識改革、処方を受ける側の意識改革も必須（医学部のカリキュラムで社会的処方を学ぶ）
  - リンクワーカーが医療情報にアクセスできるなど、仕組みを抜本的に変えていくことも必須

参考 令和5年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「英国等諸外国における支援を必要とする住民と地域の多様な主体との調整を行う職種との国際比較を通じた生活支援コーディネーターの活動基盤強化に関する調査研究」  
社会的処方、リンクワーカーについてイギリスとオランダの取組を調査
- ・難聴・補聴器
  - 加齢に伴う難聴（音は聴こえるけれど、なにをいっているのかがわからない）について、誰もがなることを前提に、地域で理解をすすめていくことも重要
  - 補聴器の利用を定着させる、使い続けるために、当事者がサポーターになり気軽に相談できる体制も重要
- ・身元保証など、どんな課題を話すなかでも「地域」などがでてくる社会的処方というコンセプトのなかに紐づけて議論する必要があると感じる